

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和四年三月一日発行 第九十六号

檀信徒の皆さまこんにちは。この時期の夜明けは最高です。私がお堂に入る六時半前には白々と明けてきます。文章にすると「白々と」になります。何とも言えない桃色に空と山の境が染まっています。その昔はもつと建物が少ないとは思いますが、朝の時間は建築物も真つ黒で日中の様な個性を示しません。何代も昔の住職もこの様な夜明けを眺めていたのかと思うと感慨深くなります。皆さんにもお見せしたいような、自分だけの宝物にしておきたいような大切な時間です。

さて星祭りが終わったら今度は春のお彼岸です。星祭りのお札は各々が生まれ持った星と、今年の星の巡りによる吉凶を調べ、大難が小難に小難は無難へと。また無難は開運へ向かう様に祈願しています。それと共に金剛宝戒寺のご本尊様の分身を皆様にお届けしているつもりです。お札を受け取られたら封筒からお札を出し、帯を切ってからお名前と年齢（数え年）に間違いが無いかご確認をしながら、お仏壇の中や大黒柱などの少し高いところにおまつり下さい。きつとご本尊様が一年間の平安をお守りくださると思います。話は変わりますが、お葬式が終わった後日、喪主ご家族様にはお寺参りに来ていただきませう。その時にはお葬式では話せなかつた故人

様の思い出話をしたり、様々な質問を受けたりもします。またお寺からは仏前勤行次第（仏前のおつとめ）をお渡しして、これから続く速夜参り（七日参り）で一緒にお唱えする事をお勧めしています。文字数は少ないお経本ですが内容は濃く、私たち僧侶が出家する際にもお唱えする程の大切な内容になっています。本来は亡くなった故人様にお唱えを頂きたいのですが、肉体の亡くなった今となつてはそれもご無理なので、故人様に代わりご遺族に読経をして頂きたいと思っています。

そうした供養を続けてきた結果、今では月参りでも多くのお檀家様と一緒に般若心経をお唱えするようになり、とてもうれしく思っています。その反面、時々気になるのがお経本の扱い方です。作法と言えほど事では無いのですがお経本はお釈迦さまから授かつたとても大切な教え（法）ですので直接、畳や床に置くのは控えた方が良くと思います。

〜ワンポイントアドバイス〜

お経本や念珠は直接、床や畳に置かない事。

二月十三日の早朝の雨は暖かでした。私は朝のルーティンとして、お勤めの前にお墓にお参りと納骨堂のお参りをした後に本堂の前で六方拝をします。雨の日は雪駄ではなく長靴を履き、傘を差しているのですが、傘に落ちる雨音がとても優しく感じられました。まるで「焦らなくて良いよ。このままで良いよ。」と諭されている様な気持ちになりました。後から「何に焦っているのだろうか？」と自問自答をしてみても答えは出てこなかったのですが、閉塞感漂うコロナ禍の毎日と、二月の講習会がお休みになったのを知らぬ間に気にしていたのかもしれない。

大日如来様とは言葉にすると宇宙の真理です。現象としては森羅万象、命の源です。鳥のさえずる声や旗をなびかせる風にも宿っています。そんな大日如来様に包まれたような心地の良い瞬間でした。その後、何度も薄氷を見ていますが三寒四温。確実に春は近づいています。今を楽しみましょう！

コロナ禍になり高野山真言宗でも多くの研修が見送られてきましたが、二月には二つの研修会が行われました。その様な経緯から今回は両方ともリモート研修となりました。音声の途切れや雑音などが入ることもありますが、おおむね不便なく質疑応答まで出来ます。これまでは研修に参加するために月忌の変更をお願いしたり、交通費や移動時間を割いての参加でしたが、ロス少なく出席が出来るのは画期的です。今後はコロナが収束しても利用され続けられると思われませんが、研修後の懇親会が無いのは寂しく感じました。合掌

四月八日（金曜日）十時三十分より

「法話の会」金剛宝戒寺 本堂において